

共生社会、持続可能社会



経済活動を支える物流で、品物を傷つけずに運ぶのに欠かせないのが「包装」だ。輸送包装容器の設計製造を手掛ける一関市地主町の東北ウエノ（鈴木雅彦代表取締役）は、依頼主の要望に応じて最適な包装の在り方を提案している。輸送の際の積載効率を高めることで地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO₂）削減や循環型社会の実現を目指しており、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の「つくる責任 つかう責任」に貢献している。

同社の取引先は主に県内外の自動車や半導体、精密機械の生産メーカー。製造業では製品を作る際、関連企業や工場間での部品の輸送が欠かせないが、東北ウエノではそれぞれの輸送のケースに応じて適切な包装資材や仕様を設計し、提案する。

「例えば、従来は精密部品を一つの容器に30個梱包していたが、容器の素材や形を工夫して、40個梱包できるようにした。輸送コストの削減だけでなく、環境負荷の低減も大きなテーマと捉え、持続可能な社会づくりに貢献していきたい」。代表取締役の鈴木さん（68）

12 つくる責任 つかう責任



最適包装でCO₂削減



自社で設計した緩衝材を手に、社員と言葉を交わす鈴木雅彦代表取締役（左）

は力を込める。

使用する包装資材は段ボールやプラスチック、発泡ポリエチレン、フィルムなどさまざま。取引先の工場を訪問して出荷状況や輸送手段などを細かく確認した上で、素材や形状を検討・設計し、最適なものを提案する。

「アイデア次第で包装貨物を小型化、軽量化できれば、CO₂削減にも大きく貢献できる」

また、同社は「環境問題について正しい情報を伝えたい」との思いから、月1回取引先向けに「環境ニュース」を発行。社員が持ち回りで担当し、包装資材や環境を巡る

📌 持続可能な開発目標（SDGs） 2015年に国連サミットで採択された国際目標。「誰一人取り残さない」を基本理念に、環境破壊や人権侵害をなくし、全ての人が豊かに暮らす世界の実現を目指す。男女平等や水資源・地球温暖化関連、経済成長など内容は多岐にわたる。「つくる責任 つかう責任」など17の目標と、具体的な取り組みとなる169のターゲットを掲げて普及を図っている。

昨今の話題などを発信。業界全体で意識を高めようと努めている。

折しも国内では4月、企業などにプラスチック使用の削減を促す「プラスチック資源循環促進法」が施行される。同社では社内勉強会を開き、今後の対応の方向性などを協議している。

世界的にプラスチックごみの海洋汚染が問題となっている中、鈴木さんは「プラスチックを減らすだけでなく、捨てる方についての議論も必要だと感じる。持続可能な社会に向け、自分たちができることに取り組んでいく」と見据える。

（終わり）